

# 船団

●第93号

特集Ⅱこの指止まれ！





# 会員作品

坪内 稔典

雲が好き三人官女の真ん中は  
あくびして五人囃子の三人目  
紙雛のクレヨンの赤くちびるは  
ハツサクに親指を立て父である  
伊予柑を転がして読む蕪村集  
文旦のサクサク感がいいな、今朝  
文旦とカバは親戚ねんてんも

中原 幸子

あ、雪といえぱりんりん鈴りんりん  
盗み聞きしたこと小春だったこと  
鴨のこえ丘があるから夢を見る  
霜柱ニコニコテキキパキ霜柱  
来るなどか来いとか白樺の芽吹く  
何も知らぬ味噌一パック春の昼  
トラ結婚ゴリラ結婚つくしんぼ

火箱 ひろ

茶団子の一列五つ山眠る  
陳謝しておれば餅焼く匂いかな  
マフラーを伸ばして絆ごっこして  
星形の人参星形の絆  
雪の夜の絵本をぬける白いねこ  
生前のわたしはここにいて椿  
つくし摘む紙鉄砲に撃たれつつ

陽山 道子

注連明けのもう迷ってる梅田地下  
絆創膏の手で渡されるシクラメン  
思案とかコートを脱いで車座に  
寒椿正面ばかりじゃ疲れれます  
窓に雪アイロン掛けのはかどらず  
気まぐれの春の歩幅と友情と  
段畑菜の花菜の花父眠る



●俳句30句 中原幸子 (1938年まれ)

# 動詞る？ 桜む！



春の雪パソコンしたり猫したり

田楽や忘れたふりもいいもんだ

かつこいいなあ桜むを突き放し

クロツカスをごらんさやさや朝の音

せつせつとスパナを磨き桜むの

白が好き青好き黄好き春の好き

桜んでイスタンプールまでちよつと

鈴ひとつ添えて納める官女たち

安曇野に蝶飛んでいる飛んでいた

女ピエロの黒子は四角夏兆す

テキパキとバテてビールのジュース割り

起きなさい葱は葱です白いです

机ろうプリーズハブサム若葉風

ゆっくりはのろまともいう春よ来い

雪柳弁護士呼んでくれますか

冴え返るとはまっさおな涙です

かたつむりあなたの話眠れます

痛いから痛いと言わぬ雪解水

雲飛んでコスモス見ごろ見られごろ

梅におう梅かおる梅いつのまに

できないはできるの蕾星飛んだ

盆梅のよいしょと曲がる女かな

だが、と来る人にあげよう温め酒

啓蟄の折れて曲がって呼気吸気

失念ってサボったんやる風邪引くよ

目が見てる口が食べてる春の朝

悴んでそこで折れるな爪楊枝

起きている家が一軒春浅し

くくくぐふつ朝を歩けば朝の冬

さっちゃんに椿の花の咲くころ

悼 萩谷幸子さん